

新型コロナウイルスによる影響について（報告）

千葉商工会議所では新型コロナウイルス感染拡大防止策の一つとして、令和元年度末より、パソコン教室の休校、検定試験の中止、貸会議室の予約受付中止などの対策を取ってきました。その結果、大きな影響の生じた一般会計とビル会計について今年度の事業への影響及び見通しについてご報告致します。

1. 事業への影響について

- (1) 一般会計の事業収入のうち、影響の大きいものとしてパソコン教室が 6,300 千円、検定事業が 4,500 千円減少しています。
- (2) ビル会計の事業収入としては、貸会議室収入が 9,200 千円減少しています。

2. 今後の見通しについて

新型コロナウイルスの影響は、特にパソコン教室事業、検定事業、貸会議室事業の3事業において出ているため、これらについて、会場の「3密」を避けるなどの感染予防策を徹底した上で実施すると想定し試算した結果、一般会計は今期の収支差額が当初予算より 34,000 千円のマイナス、ビル会計は 26,000 千円のマイナスとなる見込みです。

3. 対応策

(1) 一般会計における対応

更なる収入の維持、確保に向けた取組をします。一方でコロナ感染症収束の見通しがたっていない中、事業の必要性、実現性を精査し、先送りや取り止めなどの見直しを行いました。主なものは次の通りです。

- ① 会員増強及び組織強化に向けた取組みの延期（組織強化費 7,500 千円）
- ② オリパラ事業、インバウンド関係事業、国際化推進事業等の執行留保（合計 13,800 千円）
上半期は各事業の安全対策や実施体制整備の可否、緊急性等を検討し、状況に応じて予算執行を留保します。下半期は上半期の状況を見た上で、個別に各事業の執行について判断します。

(2) ビル会計における対応

- ① 貸会議室の予約状況を見ながら、大口利用先を中心に販促活動を継続し、減収額の削減を図ります。
- ② 支出超過分については、会館基金積立金を一時的に取崩し損失の補填を検討します。

新型コロナウイルスは今後も事業運営に影響を及ぼすと思われませんが、その影響を極力少なくするよう会議所をあげて対応してまいります。

以上